

川崎競馬経営計画（概要版）

はじめに

- 川崎競馬は、平成12年4月に経営の健全化を目指し、神奈川県と川崎市を構成団体とする一部事務組合の「神奈川県川崎競馬組合」（以下「競馬組合」という。）を設立しました。
- 厳しい経営環境の中、ピーク時の16年度末には約36億円に達していた累積赤字については、売上振興策や経費削減策に、組合職員はもとより関係者が一丸となって継続的に取り組んだ結果、25年度末に解消することができました。
- しかしながら、26年度末の時点で、構成団体への配分金の繰出しを安定的に実現できる目処は立っておらず、また本場の売上や入場者数の減少傾向には歯止めがかかっていませんでした。さらに、今後を見通すと、レジャーの多様化やファンの高齢化等の公営競技に共通する課題に加え、場内の施設・設備の老朽化への対応等の川崎競馬固有の課題も山積していました。
- そこで、27年3月に「川崎競馬経営計画」（以下「経営計画」という。）を策定し、居心地の良い場内環境の整備、距離の多様化などによる競走番組の魅力化及び広報やイベント・ファンサービスの充実等に取り組んできました。
- その結果、27年度からは毎年、構成団体へ配分金を繰り出していることに加え、29年度からは3年続けて売上金の最高記録を更新しました。
- しかし、この好調な売上がこのまま継続するかということについては不透明であり、新たな感染症が経済に与える影響や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会後の景気後退の可能性など懸念される材料もあります。
- そこで、当面5年間の財政収支を見通すとともに、安定的な運営の継続や強い馬づくりなど今後の課題を解決する施策を盛り込んだ、今後の経営の指標となる新たな「経営計画」を策定しました。
- 今後は、川崎競馬のさらなる発展に向けて、これまで以上に関係者との連携・協調を図りながらこの計画を着実に実行し、地域の皆様はもとより、全国に広がる地方競馬ファンに支持されるよう、全力をあげて取り組んでまいります。

令和2年3月

神奈川県川崎競馬組合

1 川崎競馬経営計画の内容

1 計画期間

令和2年度から6年度までの5年間

2 経営目標

- (1) 公正な競馬を着実に実施したうえで安定的な運営を継続することにより、毎年度の単年度黒字を達成し、経営基盤強化のための基金を積み立てるとともに、構成団体への配分金を安定的に繰り出す。

〈6年度の数値目標〉

・勝馬投票券売上金	川崎競馬開催の売上総額	800億円 (Ⓞ 760億円)
	地方競馬受託場外発売額	290億円 (Ⓞ 290億円)
	(南関受託場外売得金及び広域併売売得金)	
	JRA受託発売額 (WINS川崎発売額)	310億円 (Ⓞ 308億円)
・構成団体への繰出金		8.1億円 (Ⓞ 5.4億円)
・不祥事ゼロ	(職員及びきゅう務員等競馬関係者による不祥事 及び禁止薬物陽性馬の発生、放馬事故等)	0件 (Ⓞ 0件)

- (2) 競走馬の一層の確保、きゅう舎等飼養環境及び走路等調教環境の整備、きゅう務員の確保について着実に取組みを実施することにより、川崎在きゅう頭数を増やし、強い川崎所属馬をさらに輩出していくことで、競馬ファンを魅了するレースの施行及び新たな競馬ファンの獲得に繋げる。

〈6年度の数値目標〉

・川崎在きゅう馬頭数		560頭 (Ⓞ 510頭)
・重賞成績	川崎在きゅう馬のダートグレード競走入着頭数	7頭 (Ⓞ 5頭)
	川崎在きゅう馬の南関東重賞競走勝利頭数	12頭 (Ⓞ 9頭)
・川崎競馬所属きゅう務員1人当たりの持馬数		2.8頭 (Ⓞ 3.0頭)

- (3) 様々な媒体を活用した広報や競馬ファン、競馬未経験者又は競馬初心者、ファミリー層といった立場の異なる多様な来場者各々に支持されるイベント・ファンサービス等を実施することで入場者数を拡大するとともに、構成団体や県内市町村、地元企業等との連携・協調を推進して、地域社会から愛され、親しまれる川崎競馬場を確立する。

〈6年度の数値目標〉

・入場者数	川崎競馬開催の本場入場者数	42万人 (Ⓞ 37万人)
	川崎競馬場の総入場者数	220万人 (Ⓞ 184万人)
	(地方競馬受託場外発売、JRA受託発売も含む)	
・イベント・ファンサービス数		580件 (Ⓞ 550件)
・構成団体・県内市町村・地元企業等の協賛レース数		188レース (Ⓞ 178レース)

(注) (Ⓞ) は元年度の実績見込を示す。ただし、勝馬投票券売上金の元年度は2月現計予算額を示す。

2 経営目標を達成するための主な取組施策

(1) 売上の維持

- ファンに分かりやすい開催日程の確保
- 在宅投票の拡大
- 専用場外発売の継続
- JRA受託発売の拡大
- 魅力ある競馬の開催・競走番組の充実
- 海外主催者等との連携強化

(2) 安定的な運営の継続

- 運営体制の強化
- 職員の資質向上
- 経費の削減及び歳入の確保
- 基金の積増し
- 構成団体への配分金の繰出し
- 畜産振興への寄与
- 馬主会・調教師会等の関係団体との連携強化

(3) 公正かつ安全な競馬の開催

- きゅう舎地区の公正の確保
- 放馬事故対策の強化
- 公正確保の意識の徹底
- 施設・設備整備
- 災害等への対応策の強化
- 来場者の安全確保
- ギャンブル等依存症対策の実施

(4) 強い馬づくり

- 競走馬の一層の確保
- きゅう舎等飼養環境及び走路等調教環境の整備
- きゅう務員の確保
- きゅう務員及び騎手の育成

(5) にぎわいのある競馬場づくり

- 広報の充実
 - ① 様々な媒体を活用した広報の実施
 - ② 地元の団体等と連携した広報の実施
 - ③ イメージの向上
- ファンサービスの充実
 - ① 競馬ファン、競馬未経験者又は競馬初心者、ファミリー層向けイベントの実施
 - ② 企業・団体と連携したイベント等の実施
 - ③ リピーター獲得に向けた取り組み
- 居心地の良い場内環境の整備
- ファン対応に関わる意識向上

(6) 地域社会との連携・協調の推進

- 地域団体との連携・協調の推進
- 地域住民との連携・協調の推進

3 中期財政見通し

1 推計与件

(1) 歳入

- 元年度は2月現計予算額、2年度は当初予算額とする。
- 3年度以降は次のとおり見込む。
 - ・ JBC競走の影響については、実施時期が未定のため見込まない。
 - ・ 設備等整備基金取崩し額は、施設・設備整備計画に基づく設備等整備に必要な額を見込む。
 - ・ 2年度当初予算額をベースに、売上区分ごとに次のとおり見込む。

(勝馬投票券売上金の前年度対比伸び率)

区 分		3年度	4年度	5年度	6年度
川崎競馬開催	川崎本場	+1%	△1%	±0%	+1%
	専用場外	±0%	△3%	±0%	±0%
	依頼場外	+2%	△3%	△1%	△2%
	在宅投票	+5%	+1%	+2%	+4%
地方競馬	南関分	△10%	△11%	±0%	±0%
受託場外発売	広域分	△7%	±0%	±0%	±0%
JRA受託発売		±0%	±0%	±0%	±0%

(2) 歳出

- 元年度は2月現計予算額、2年度は当初予算額とする。
- 3年度以降は、次のとおり見込む。
 - ・ 売上額に連動して増減する経費（払戻金、地方競馬全国協会交付金、場外主催者への業務協力費等）は、各年度の売上額に基づき、現行制度上の所要額を見込む。
 - ・ 設備等整備基金には、各年度の単年度収支相当額を積み立てるものとする。
 - ・ 構成団体繰出金は、目標額として設定したものである。

2 推計結果

(単位：億円)

区 分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
歳入	川崎競馬勝馬投票券売上金	760	740	770	770	780	800
	地方競馬受託場外発売業務受託収入	35	39	36	35	35	35
	J R A 受 託 発 売 収 入	17	17	17	17	17	17
	設備等整備基金取崩し額	17	8	4	4	10	3
	前年度からの繰越金	27.1	—	—	—	—	—
	その他の収入	11.1	10.8	9	9	9	9
	合 計	867.2	814.8	836	835	851	864
歳出	払 戻 金	577	553	570	570	577	592
	地方競馬全国協会交付金	11	10	10	10	10	11
	地方公共団体金融機構納付金	3.8	8.8	7.0	7.3	7.3	7.4
	その他の経費	217.8	223.7	231.8	230.2	238.9	235.5
	設備等整備基金積立金	40	10	10	10	10	10
	経営安定化基金積立金	10	—	—	—	—	—
	構成団体繰出金	5.4	6.3	7.2	7.5	7.8	8.1
	予 備 費	(2.2)	3	—	—	—	—
合 計	865	814.8	836	835	851	864	
単年度収支		2.2	0	0	0	0	0
実質収支		2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2
平成30年度末実質収支		=27.1					

(注) 1 元年度2月現計予算額における単年度収支2.2億円は、不用見込額（予備費）を計上している。

2 2年度に、「小向きゅう舎地区整備計画」を策定し、同計画の財源を担保するものとして併せて「小向きゅう舎施設・設備整備基金（仮称）」を新設する予定であり、必要経費を算出のうえ中期財政見直しを見直す。